

銃  
代

秘

北滿試發第六號

北滿冬季資材（一般兵器）試験判決速報送付ノ件

昭和十二年二月十七日 北滿試験委員會幹事長 田中新

陸軍大臣 杉山 元 殿

首題ノ件關東軍北滿試験委員ヨリ提出ニ付別冊ノ送送  
付ス

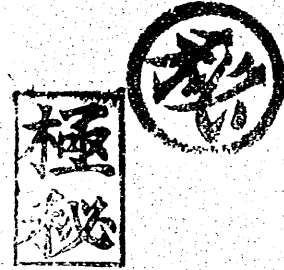
軍  
和昭  
12.2.18  
前  
官

陸軍省  
12.2.19  
受  
兵務課

試験  
委員會  
幹事長  
田中新  
印

陸軍省  
12.2.18  
第2  
銃  
代

1931



昭和十二年二月十日  
關東軍北滿試驗委員

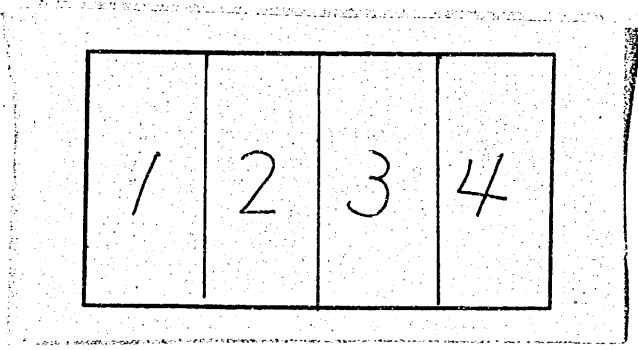

昭和十一年度  
北滿ニ於ケル  
資材(主要一般兵器)冬令試験判決速報表

第一報

目次

表番號	試 驗 項 目
第一表	試製九六式輕機關銃
	試製九七式二十粒機關銃
	試製自動小銃
	狙擊眼鏡附小銃
	試製九五式野砲
	四年式十五粒榴彈砲
	試製九六式十五粒榴彈砲
	試製中迫擊砲、同彈藥
	試製重迫擊砲、同彈藥
	九一式十榴用信管測合機
第二表	九四式輕迫、榴彈、重榴彈
	有翼彈
	試製慣性二働信信管
	試製五〇秒瞬電信管
	鋼管利用彈丸
第三表	各種徹甲彈
	試製推進觀測車
	試製重油機關 八匹牽引車
	試製重油機關 五匹牽引車
	重油機關附六輪自動貨車
	裝軌式車輛各種防滑具
	八九式中戰車及九五式輕戰車用慣性始動機
	工兵用爆藥火具
	特種鋼板
	鎔接野砲
第四表	鐵帽地金抗力試驗
	試製火藥及爆藥
	鎔接裝甲板抗力試驗
	對戰車地雷
第五表	備考

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する  8 年 10 月 4 日  主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

第一表

昭和十一年度  
北滿ニ於ケル

資材(主要一般兵器)冬季試験判決速報表

關東軍北滿試驗本員  
昭和十一年二月十日調製

1934

試験項目	判決	試験場所及期日	気温	備考
<p>試製 九六式輕機關銃</p>	<p>零下三十度乃至四十度附近ノ極寒冬季ニ在リテモ適當ノ處置ヲナストキハ射撃ノ機能一般ニ良好操用又至便ニシテ現用 十一年式輕機關銃ニ比シ其成績良好ナリ</p>	<p>海拉爾 自十月廿三度 至一月下旬 四十度</p>	<p>極寒冬季野 外ニ放置シ 機能ヲ充分 ナラシムルタメ ニハ不凍性 油ノ良好ナル モノヲ使用シ 實包ハ無塗 蠟實包ヲ採 用スルヲ必要 トスル外適當 ノ保温用銃 覆ヲ以テ射 撃前後 銃ヲ保護ス ルヲ必要トス</p>	
<p>試製九七式</p>	<p>零下三十度附近ニ於ケル一般ノ射撃機能ハ概テ良好ナルモ重要部品タル活塞、擊莖ノ強度不充分ナルヲ以テ此點ヲ改修セハ實用ニ供シ得ルモノト認ム</p>	<p>海拉爾 零下 自二十度 至三十度</p>		
<p>十牝機關砲</p>	<p>騎兵用ノモノハ運動能力充分ナラス 鞍馬ノ疲勞大ニシテ騎兵ノ行動ニ追從セシムルコト困難ナルヲ以テ優良</p>			

二十機關砲

サレハ歩兵ノ行動ニ追從シ得ス  
 騎兵用ノモハ運動能力充分ナラス  
 動能力ノ疲勞大ニシテ騎兵ノ行動ニ追從セシムルコト困難ナルヲ以テ優良ナル轆馬ヲ使用シ三駢トスルヲ要ス尚作戦地ニ依リテハ機械化スルヲ有利トスヘシ

試製 自動小銃

零下三十度附近ニ於ケル射撃ノ機能ハ一般ニ良好ニシテ實用ニ供シ得ルモノト認ムルモ彈倉發條ノ張力減退シ彈藥ノ裝填機能不具合ノモノナシトセス  
 丙ハ彈倉突出セル夕メ据銃及携行ニ不便ニシテ實用上甲ヲ有利ト認ム

狙撃眼鏡附 小銃

零下三十度附近ニ於テハ寒氣ノ影響殆トナク實用ニ適スルモノト認ム  
 但氣温ニ關係ナキ事項ナシト黎明薄暮等ニ使用スル場合ヲ顧慮シ眼鏡内ノ距離分畫ヲ該時期ニ於テモ見得ル如ク修正ヲ要ス

試製九五式 野砲

零下三十度附近ニ於ケル射撃及運動ニ試験ノ結果ニ徴スルニ砲架各部ノ抗堪性及射撃ノ機能良好ニシテ且防寒具ヲ装着セル場合ノ操作ニモ支障ヲ加

十二月 齊々演習 一月 各本演習

零下三十度附近 本火砲ニ限テカモ一般ノ様式駐退機ノ各部ニ使用セルコトニ限ラズ塞具ハ極寒ノ影響ヲ受ケ機能稍不良ナルノ傾向アリ

試製九五式  
野砲

零下三十度附近ニ於ケル射撃及運動ニ  
於ケル結果ニ徴ス  
試験ノ結果ニ徴ス  
十二月  
齊々  
一月  
寒具ヲ装着セル場  
合ノ操用ニモ支障  
習參加  
ナク野砲トシテ  
テ概テ實用ニ適ス  
ルモ認ム  
運動性  
試験ヲ  
實施

本式砲ニ限ラ  
サルモ一般本  
機式駐退機  
ノ各部ニ使用  
セルコトニ鑑  
察具ハ極寒ノ  
零下  
三十度  
影響ヲ受ケ  
機能稍ニ不良  
トナルノ傾向  
アリテ耐寒  
性緊寒具ノ研  
究ヲ必要ト認  
尚駐退機ハ折  
損スルコトアリ  
以テ修正ヲ以  
テテ修正ヨリ  
西下スルニテ  
ス豫備品ノ携  
行ヲ必要トス

四年式  
十五榴榴彈砲

零下三十度内外ノ  
気温ニ於ケル射撃  
及運動ニ對スル砲  
架各部ノ抗堪力ハ  
改修及新調砲共ニ  
概テ十分ニシテ實  
用ニ耐ユルモノト  
ス  
射撃ニ對スル抗堪  
性試驗ノ際凍結土  
齊各爾  
ニ於ケル約六百發  
一月  
丙三百五十發ハ一  
號裝  
各季演  
習ニ參  
藥トスノ射撃ノ結  
果砲架後端底板ニ  
加スル共  
約三発ノ緩ナル隆  
ニ運動  
起ヲ生セリ實用上  
試驗ヲ  
支障ナシト認ムル  
モ特ニ實  
將來該部ノ構造ニ  
施ス  
就テハ修正ヲ必要  
ト認ム

零下  
三十度

零下三十度附近ニ  
於ケル射撃並運動  
試験ノ結果ニ徴ス  
抗  
堪性及射撃機能良  
好ニシテ野戰砲ト  
シテ適當ナルモノ  
ト認ム  
特ニ四年式十五榴  
十二  
海拉爾



四年式  
十五糎榴彈砲

試製九六式  
十五糎榴彈砲

改修及新調砲共ニ  
概テ十分ニシテ實  
用ニ耐ユルモノト  
ス  
射撃ニ對スル抗堪  
性試驗ノ際凍結土  
ニ於ケル約六百發  
内三百五十發ハ一  
號裝冬奉演  
藥トスノ射撃ノ結  
習ニ參  
果砲架後端底板ニ  
加スル共  
約三糎ノ緩ナル隆  
ニ運動  
起ヲ生セリ實用上  
試驗ヲ  
支障ナシト認ムル  
モ特ニ實  
將來該部ノ構造ニ  
施ス  
就テハ修正ヲ必要  
ト認ム

海拉爾  
十二月

零下  
三十度

零下三十度附近ニ

於ケル射撃並運動

試驗ノ結果ニ徴ス

ルニ砲架各部ノ抗

堪性及射撃機能良

好ニシテ野戰砲ト

シテ適當ナルモノ

ト認ム

特ニ四年式十五糎

ニ於ケル射撃並運動

ニ於ケル安定性大

速方向高低ノ照準

機能輕快ニシテ全

般ノ成績優良ナリ

但細部ニ於テハ修

正ヲ必要トスル點

アリ

彈藥車ハ安定良好

抗堪性充分ニシテ

成績可ナルモ八九

式彈藥車ノ様式ト

比較研究シ彈丸ノ

抽出ヲ容易ナラシ

ムルヲ可トス

海拉爾

十二月

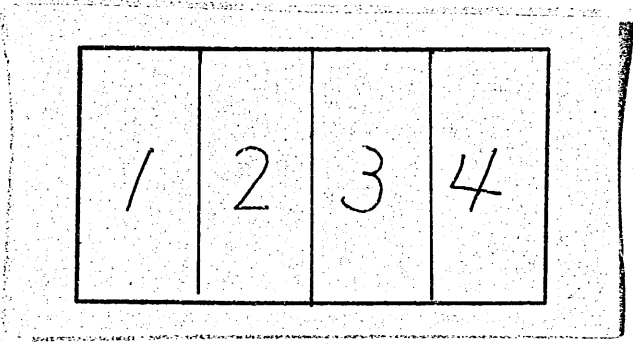

零下  
三十度  
附近

於ケル射撃並運動  
試驗ノ結果ニ徴ス  
ルニ砲架各部ノ抗  
堪性及射撃機能良  
好ニシテ野戰砲ト  
シテ適當ナルモノ  
ト認ム  
特ニ四年式十五糎  
ニ於ケル射撃並運動  
ニ於ケル安定性大  
速方向高低ノ照準  
機能輕快ニシテ全  
般ノ成績優良ナリ  
但細部ニ於テハ修  
正ヲ必要トスル點  
アリ  
彈藥車ハ安定良好  
抗堪性充分ニシテ  
成績可ナルモ八九  
式彈藥車ノ様式ト  
比較研究シ彈丸ノ  
抽出ヲ容易ナラシ  
ムルヲ可トス

海拉爾  
十二月

零下  
三十度  
附近

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 4 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

第二表

1938

試馬項目	判	決	試驗		
			場所及期日	氣温	
<p>試製中迫撃砲</p> <p>同彈藥</p>	<p>零下三十度内外ニ於ケル射撃及運動ニ於テ結果ハ砲架各部ノ抗堪力充分ニシテ射撃ノ機能モ概ネ良好ナリ</p> <p>彈藥ノ機能ハ概ネ可ナルモ彈尾裝藥等ニ若干修正ヲ必要トス</p>	<p>零下三十度附近ニ於ケル凍結土上ニ於ケル備砲作業射撃及運動試驗ノ結果機橋上若干改修ヲ可トスル點ナシ</p> <p>トセサルモ備砲容易射撃ノ機能良好ニシテ砲架各部ノ射撃及運動ノ抗堪性充分ニシテ此ノ種火砲トシテノ實用性充分ナルモノト認ム</p> <p>行軍能力ハ一時間平均八料ノ速度ヲ以テ行動シ得</p> <p>彈藥ノ機能ハ信管ノ延期秒時變換機能充分ナラサリシ點アリシカ其他ハ一般ニ良好ニシテ精度モ亦概シテ良好効力亦大ナリ</p> <p>寒地ニ於ケル信管測合容易且精度良好ニシテ現在ノ信管測合ノ甚シク困難ナルニ比シ實</p>	<p>齊々哈爾濱 零下三十度</p> <p>一月上旬 乃至 三十度</p>	<p>零下三十度附近</p>	<p>備考</p>
<p>九一式十榴用信管測合機</p>	<p>管測合ノ甚シク困難ナルニ比シ實</p>	<p>管測合ノ甚シク困難ナルニ比シ實</p>	<p>齊々哈爾濱 零下三十度</p>	<p>零下三十度附近</p>	<p>備考</p>

<p>九式十榴用 信管測合機</p>	<p>九四式輕迫 榴彈 重榴彈</p>	<p>有翼彈</p>	<p>試製 慣性二働信管</p>
<p>好効力亦大ナリ 精度モ亦概シテ良 一點アリシカ其他ハ 一般ニ良好ニシテ 寒地ニ於ケル信管 測合容易且精度良 好ニシテ現在ノ信 管廻リ以テスル信 管ノ測合ノ甚シク 困難ナルニ比シ實 用的價値優良ナリ</p>	<p>供試彈丸彈體ノ昨 年度ノ試驗結果ノ 缺點ハ充分矯正セ ラレ北滿極寒季ニ 於テモ十分實用ニ 耐フルモノト認ム 但藥包ハ零下三十 度迄ハ支障ナキモ 零下三十五六度ニ 至レハ硬化程度大 ニシテ彈尾ニ裝入 スル際龜裂ヲ生ス 此ノ際少シク暖ム レハ實用ニハ支障 ナキモ將來尚其繁 ヲ避ケ得ルモノニ 就テ研究ヲ望ム</p>	<p>本試驗ニ供試セル 輕迫擊砲用有翼彈 ハ氣温零下三十度 ニ於テ其彈尾ノ強 度十分ニシテ實用 ニ耐フルモノト認 ム</p>	<p>零下三十度内外ノ 氣温ニ於ケル凍結 土上ニ對スル落角 小ナル場合ノ信管 機能ハ未タ充分ナ リトハ言ヒ難シト 雖現制瞬發及短延 期信管ニ比スレハ 其成績良好ナリ</p>
<p>齊哈爾 一月</p>	<p>海拉爾 十二月</p>	<p>同 右 同 右</p>	<p>齊哈爾 一月 (追加)</p>
<p>右同</p>	<p>零下 三十度 附近</p>	<p>同 右</p>	<p>同 右</p>

参考  
四一式山砲ノ千米ニ於ケル  
氷上射撃ノ場合ニ於テハ  
信管ハ全ク作用セズ

試製  
慣性二衝信管

土上ニ對スル落角  
小ナル場合ノ信管  
機能ハ未タ充分ナ  
リトハ言ヒ難シト  
雖現制瞬發及短延  
期信管ニ比スレハ  
其成績良好ナリ  
參考  
四一式山砲ノ千米ニ於ケル  
氷上射撃ノ場合ニ於テハ  
信管ハ全ク作用セズ  
超飛セリ

海拉爾  
十二月  
齊哈爾  
一月  
(追加)

同右

試製五秒  
瞬曳信管

曳火及瞬發ノ機能  
ハ概ネ良好ニシテ  
曳火ノ精度モ大體  
可ナルモ氣温零下  
二十乃至三十度ニ  
於テ信管測合困難  
トナリ強ヒテ之ヲ  
測合シタル場合信  
管體ノ駐筭變形シ  
不規彈ヲ生スルヲ  
以テ此點ヲ修正セ  
ハ實用ニ堪ヲルモ  
ト認ム

海拉爾  
十二月

同右

現制式製作

鋼管利用  
彈丸

試驗ヲ經テ決セラ  
ルヘキモ(内地試驗)  
拾得彈丸ノ外觀檢  
査ノ結果ハ零下三  
十五度ニ於ケル射  
撃ニ耐ヘ實用ニ支  
障ナキモノト認ム  
但將來鎔接箇所ノ採  
用檢査ノ方法ニ就テハ  
研究ヲ必要トス

同右

法依ルモノハ  
勿論新研究  
品モ實用ニ  
耐アルモノ思  
考セラルルモ元  
來鎔接法ハ  
其製品ノ檢査  
ノ方法ニ於テ充  
分ノ適法ヲ採  
用スルヲ必要條  
件トス

各種  
徹甲彈

零下三十度附近ニ  
於ケル徹甲彈ノ鋼  
板ニ對スル抗力ハ  
着速大ナルトキハ  
常溫時ト大差ナキ  
モ着速小トナルニ  
及ヒ稍貫通限界距  
離ヲ短縮スルノ結  
果ヲ得タリ  
二重燒入ノモノ及  
一回調質ノモノ

同右  
同右

試製五秒  
瞬電信管

曳火ノ精度モ大體  
可ナルモ氣温零下  
二十乃至三十度ニ  
於テ信管測合困難  
トナリ強ヒテ之ヲ  
測合シタル場合信  
管體ノ駐筭變形シ  
不規彈ヲ生スルヲ  
以テ此點ヲ修正セ  
ハ實用ニ堪フルモ  
ト認ム

海拉爾

同右

最後の判決ハ水壓

現制式製作

鋼管利用  
彈丸

試驗ヲ經テ決セラ  
ルヘキモ(内地試驗  
拾得彈丸ノ外觀檢  
査ノ結果ハ零下三  
十五度ニ於ケル射  
撃ニ耐ヘ實用ニ支  
障ナキモノト認ム  
但將來銲接箇所ノ採  
用檢査ノ方法ニ就テハ  
研究ヲ必要トス

法依ルモノハ

勿論新研究

品モ實用ニ

耐アルモノト思

考セラルルモ元

來銲接法ハ

其製品ノ檢査

ノ方法ニ於テ充

分ナル適法ヲ採

用スルヲ必要條

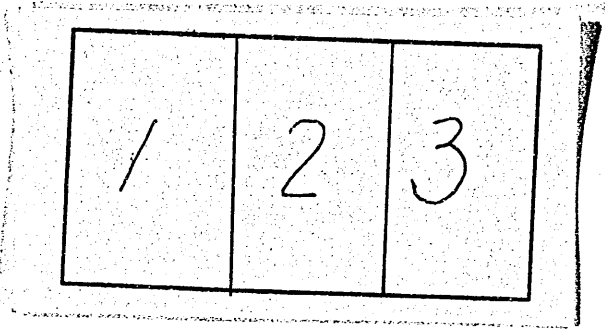

件トス

各種  
徹甲彈

零下三十度附近ニ  
於ケル徹甲彈ノ鋼  
板ニ對スル抗力ハ  
着速大ナルトキハ  
常溫時ト大差ナキ  
モ着速小トナルニ  
及ヒ稍貫通限界距  
離ヲ短縮スルノ結  
果ヲ得タリ  
二重燒入ノモノ及  
一回調質ノモノモ  
大ナル差ナキモ一  
回調質ノモノハ貫  
通後彈體破斷スル  
モノ多キ結果ヲ得  
タリ調質ノ方法ニ  
就テハ更ニ研究ヲ  
要ス

同右  
同右  
同右

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 4 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	



第五表  
試驗項目

判 決

試驗  
場所及期日  
氣温

備考

試製  
觀測挺進車

酷寒時ニ於ケル機  
能ハ概テ可ナリ  
但將來更ニ車内ノ  
防寒等ニ一部改修  
ヲ實施セハ實用ニ  
供シ得ルモノト認  
ム

海拉爾  
十一月  
（追他）

零下  
三十度  
附近

戰闘運用  
關スル研究  
目下公主嶺  
ニ於テ試驗  
中ナルヲ以テ  
後日報告ス

試製重油機關  
八馳牽引車

零下二十度乃至三  
十度凍結地上ニ於  
ケル牽引車ノ能力  
ハ充分ニシテ機能  
概テ良好確實ニシ  
テ相當ノ耐久性ヲ  
有シ極寒地ニ於ケ  
ル實用ニ適スルモ  
ノト認ム

齊哈爾  
一月

零下  
二十度  
乃至  
三十度

試製重油機關  
八馳牽引車  
ハ試驗ノ同時  
ニ試驗ヲ實施  
シ約十三噸ノ  
火砲車ヲ牽  
引毎時八時  
速度ヲ以テ  
不齊地ヲ通  
過シ其能力  
充分ナリキ

1942

試製重油機關  
五馳牽引車

概テ八馳牽引車ト  
同様  
揮發油機關ニ比シ  
優良ナル結果ヲ得  
成績良好ニシテ牽  
引車トシテ充分ナ  
ル性能ヲ有スルモ  
ノト認ム

海拉爾  
一月中旬  
齊哈爾  
一月下旬

零下  
三十度  
乃至  
四十度

試製九六式十  
五榴ノ試驗ト  
同時ニ實施シ  
機能良好ニシ  
テ殆ト無故  
障ノ良結果  
ヲ得タリ

重油機關附自動貨  
車ノ各本北滿ニ於



試製重油機關  
五趾牽引車

同様に八趾牽引車ト  
揮發油機關ニ比シ  
優良ナル結果ヲ得  
成績良好ニシテ牽  
引車トシテ充分ナ  
ル性能ヲ有スルモ  
ノト認ム

海拉爾  
一月中旬  
齊哈爾  
一月下旬

零下  
三十度  
乃至  
四十度

試製九六式十  
五榴ノ試験ト  
同時ニ實施シ  
機能良好ニシ  
テ殆ント無故  
障ノ良結果  
ヲ得タリ

重油機關附  
六輪自動貨車

重油機關附自動貨  
車ノ冬季北滿ニ於  
ケル實用性ハ揮發  
油機關附ニ比シ優  
秀ニシテ能力及機  
能取扱共ニ良結果  
ヲ得タリ將來軍用  
トシテ充分實用ニ  
供シ得ルモノト認  
ム  
極寒季ニ於テハ機  
關ハ空冷式ヲ有利  
ト認ム然レトモ細  
部ニ就テハ將來改  
善ヲ要スル點アリ

海拉爾  
十二月  
齊哈爾  
一月  
冬季演  
習ニ參  
加

零下  
三十度  
乃至  
四十五度

裝軌式車輛  
各種防滑具

齊々ハ爾及海拉爾  
附近ハ必スシモ防  
滑具ヲ必要トセサ  
ル土質及地形ナル  
クノ充分ナル判決  
ヲ提供シ得サルモ  
今回氷上ニ於ケル  
試験ノ結果何レノ  
防滑具モ實用上支  
障ナシ然レトモ  
部隊ヨリノ意見ニ  
依レハ吉林附近凍  
結坂路ノ長途行軍  
ニ於テハ現制防滑  
具ハ相當摩滅消耗  
シ概ネ二百料ニテ  
全ク用ヲナササル  
力如シ從ッテ相當  
良質ノ金質ヲ撰ヒ  
摩耗ヲ少クスルコ  
トモ必要ナレトモ  
一方此種防滑具ニ  
於テハ恰モ馬匹ニ  
於ケル蹄鐵ノ如キ  
愈念ヲ以テ簡易ニ

海拉爾附近  
齊哈爾附近  
自十二月  
至一月

零下  
三十度  
附近

裝軌式車輛  
各種防滑具

ヲ提供シ得サルモ  
今回氷上ニ於ケル  
試験ノ結果何レノ  
防滑具モ實用上支  
障ナシ然レトモ  
部隊ヨリノ意見ニ  
依レハ吉林附近凍  
結坂路ノ長途行軍  
ニ於テハ現制防滑  
具ハ相當摩滅消耗  
シ概ネ二百料ニテ  
全ク用ヲナササル  
力如シ從ツテ相當  
良質ノ金質ヲ撰ヒ  
摩耗ヲ少クスルコ  
トモ必要ナレトモ  
一方此種防滑具ニ  
就テハ恰モ馬匹ニ  
於ケル蹄鐵ノ如キ  
感念ヲ以テ簡易ニ  
シテ適時適所ニ交  
換シ得ル如ク着脱  
容易ナルモノトス  
ルヲ有利ナリト思  
考セララル

海拉爾附近  
齊哈爾附近  
自十二月  
至一月

零下  
三十度  
附近

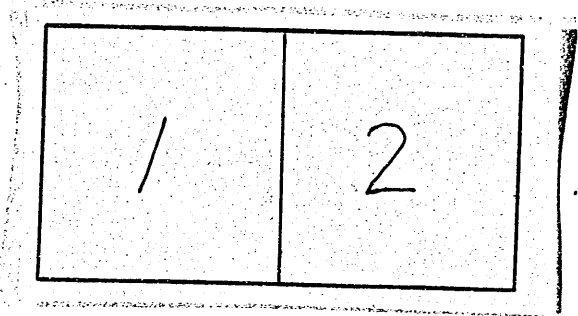

八九式中戰  
車及九五式  
輕戰車用  
慣性始動機

酷寒季ニ於ケル始  
動機能ハ概ネ良好  
ニシテ始動ノ補助  
装置トシテハ實用  
ニ適スルモノト認  
ム  
但始動ノ為ノ所要  
電量ハ始動電動機  
ニ比シテ遙ニ大ナ  
ルヲ以テ手動ノミ  
ニテ始動シ得ル如  
シ電動機ト手動ト  
併用シ電力消費ヲ  
少クスルト共ニ場  
合ニ依リテハ手動  
ノミニテ始動シ得  
ル如クスルヲ必要  
トス

海拉爾  
自十二月  
至一月

零下  
四十度

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する  8年10月4日  主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

第四表

試驗項目	判決	試日及場所	試驗氣温	備考
<p>工兵用 爆藥火具</p>	<p>零下四十度以下ノ 酷寒季ニ於ケル試 製雷管ノ起爆作用 ハ確實ニシテ制式 雷管ハ酷寒ニ於テ 其機能充分ナラス 白金線信管ハ同様 試製ノモノハ制式 ノモノニ比シ成績 良好ナリ 若ノ外爆藥ノ寒氣 ニ依ル威力等概ネ 零下四五度附近ニ 於ケル試驗ヲ實施 シ得其目的ヲ達シ 得タリ細部ハ本報 告ニハ之ヲ略ス</p>	<p>海拉爾 阜甯下旬 至一月上旬</p>	<p>零下 四度 附近</p>	
<p>特種鋼板</p>	<p>滲炭鋼板ノ抗力ハ 零下三十度内外ニ 於ケル氣温ニ於テ ハ常温時ト大差ナ キモノト認ム</p>	<p>海拉爾 十二月</p>	<p>零下 三十度</p>	
<p>鎔接野砲</p>	<p>酷寒地ニ於ケル各 種運動並射撃ニ對 スル砲架各部ノ抗 堪性ハ概ネ充分ニ シテ優秀ナル伎倆 ト充分ナル注意ト ヲ以テ製作セラレ タル電氣鎔接箇所 ノ抗力ハ相當ニ強 力ナルモノト認メ 得從ツテ將來此種 砲架ノ製造ニ應用 シ得ヘシト信スル モ元來鎔接法ノ缺 點タル検査法ノ至 難ナルニ鑑ミ緊要 ノ箇所ニ此方法ヲ 採用スルハ一考ヲ</p>	<p>海拉爾 一月</p>	<p>零下 三十度</p>	

1945

溶接野砲

ト充分ナル注意ト  
 ヲ以テ製作セラレ  
 タル電氣溶接箇所  
 ノ抗力ハ相當ニ強  
 カナルモノト認メ  
 得從ツテ將來此種  
 砲架ノ製造ニ應用  
 シ得ヘシト信スル  
 モ元來溶接法ノ缺  
 點タル検査法ノ至  
 難ナルニ鑑ミ緊要  
 ノ箇所ニ此方法ヲ  
 採用スルハ一考ヲ  
 要ス  
 將來製造ノ簡易化  
 ヲ計ルタメ綴釘法  
 ト溶接法トヲ巧ニ  
 併用スルノ方法ヲ  
 講スヘキモノト認  
 ム

海拉爾 一月

零下 三十度

鐵帽地金 抗力試験

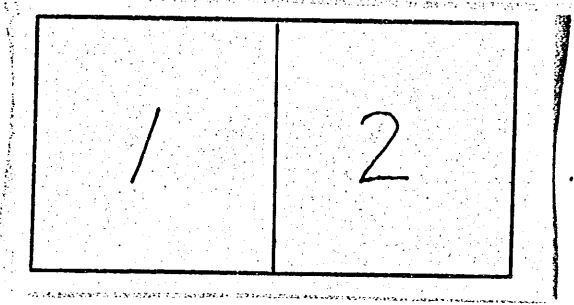

零下三十度内外ノ  
 氣温ニ於ケル鐵帽  
 地金ノ成分及熱處  
 理ノ相違ニ依ル抗  
 堪力ハ榴霰彈々子  
 ニ對シテハ其影響  
 顯著ナラサルモ小  
 銃實包ニ對シテハ  
 寒氣ノ影響ヲ認ム  
 然レトモ鐵帽各季  
 ヲ通シテ使用スル  
 モノニシテ目下ノ  
 制式鐵帽ニ直ニ改  
 制ヲ必要トハ認メ  
 ラレス

將來各氣温ヲ通シ  
 最モ有効ナル耐彈  
 抗力ヲ有スル鐵帽  
 製作ノ作業方法地  
 金ノ成分ニ就テハ研  
 究ヲ繼續スルノ要  
 アリト認ム

十二月

零下 三十度

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 10 月 4 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

第五表

試驗項目	判	決	試驗	備考
製製火藥及 爆藥	試驗ノ性質上判決	略ス	海拉爾 一月	零下 四十度

零下三十度附近ノ  
氣温ニ於テハ鎔接  
装甲板ノ對彈抗力  
ニ殆ント差異ヲ認  
メス  
厚サ十七糎以下ノ  
普通防楯鋼板ノ鎔  
接ハ其設計及施工  
ニシテ適當ナレハ  
戰車及火砲等ノ裝  
甲防楯鋼板ノ構成  
ニ利用シ安全且有  
利ナルモノト認ム  
參炭鋼板ノ鎔接ニ  
關シテハ更ニ研究  
ノ餘地アリ  
尚一般ニ鎔接部位  
ニ施工當時殘留セ  
ル内部應力ニ原因  
シ該部ノ對彈抗力  
比較的脆弱トナル  
ヲ以テ作業法ニ就  
テハ更ニ研究ヲ必  
要ト認ム

鎔接装甲板  
抗力試驗

齊々ハ爾附近ニ於  
ケル雪ヲ混シタル  
砂地上ニ於テ肉迫  
攻撃班力實際的ニ  
使用スル如ク何等  
處置ヲ講スルコト  
ナク戰車ノ履帶下  
ニ地雷ヲ挿入シタ  
ル場合ニ於ケル地  
雷ノ機能ハ良好ニ  
シテ履板ニ放ヲ破  
碎シ全ク戰車ノ運  
行ヲ不能ナシメ  
得タリ此結果ヨリ  
ニテ普通ノ地敷及

對戰車地雷

齊哈爾  
一月  
零下  
三十度  
附近

自  
力  
考  
究  
ノ  
力  
ヲ  
以  
テ  
行  
フ  
ノ  
力  
ヲ  
試  
験  
ス

ニ  
利  
用  
シ  
安  
全  
且  
有  
利  
ト  
モ  
ノ  
ト  
認  
ム  
滲  
炭  
鋼  
板  
ノ  
溶  
接  
ニ  
關  
シ  
テ  
ハ  
更  
ニ  
研  
究  
ノ  
餘  
地  
アリ  
尚  
一  
般  
ニ  
溶  
接  
部  
位  
ニ  
施  
工  
當  
時  
殘  
留  
セ  
ル  
内  
部  
應  
力  
ニ  
原  
因  
シ  
該  
部  
ノ  
對  
彈  
抗  
力  
比  
較  
的  
脆  
弱  
ト  
ナル  
ヲ  
以  
テ  
作  
業  
法  
ニ  
就  
テ  
ハ  
更  
ニ  
研  
究  
ヲ  
必  
要  
ト  
認  
ム

十  
二  
月  
三  
十  
度  
附  
近

1947

對  
戰  
車  
地  
雷

齊  
々  
哈  
爾  
爾  
附  
近  
ニ  
於  
テ  
ハ  
雪  
ヲ  
混  
シ  
タ  
ル  
砂  
地  
上  
ニ  
於  
テ  
肉  
迫  
攻  
撃  
班  
力  
實  
際  
的  
ニ  
使  
用  
ス  
ル  
如  
ク  
何  
等  
處  
置  
ヲ  
講  
ス  
ル  
コ  
ト  
ナ  
ク  
戰  
車  
ノ  
履  
帶  
下  
ニ  
地  
雷  
ヲ  
挿  
入  
シ  
タ  
ル  
場  
合  
ニ  
於  
ケ  
ル  
地  
雷  
ノ  
機  
能  
ハ  
良  
好  
ニ  
シ  
テ  
履  
板  
ニ  
放  
ヲ  
破  
碎  
シ  
全  
ク  
戰  
車  
ノ  
運  
行  
ヲ  
不  
能  
ナ  
ラ  
シ  
メ  
得  
タ  
リ  
此  
結  
果  
ヨ  
リ  
シ  
テ  
普  
通  
ノ  
地  
形  
及  
土  
質  
ニ  
於  
テ  
ハ  
充  
分  
實  
用  
ニ  
堪  
フル  
モ  
ノ  
ト  
認  
ム

齊  
々  
哈  
爾  
爾  
一  
月

零  
下  
三  
十  
度  
附  
近

1948

備  
考

一  
本  
表  
ハ  
小  
年  
度  
實  
施  
ノ  
冬  
季  
資  
材  
試  
験  
中  
一  
般  
兵  
器  
ノ  
主  
要  
項  
目  
ニ  
對  
ス  
ル  
試  
験  
成  
績  
ノ  
判  
決  
要  
旨  
ヲ  
取  
敢  
ス  
速  
報  
ス  
ル  
意  
味  
ニ  
於  
テ  
調  
製  
シ  
タ  
ル  
モ  
ノ  
ト  
ス  
ニ  
本  
表  
ニ  
掲  
ケ  
サ  
ル  
試  
験  
項  
目  
ニ  
シ  
テ  
判  
決  
要  
旨  
ヲ  
試  
験  
實  
施  
部  
隊  
ニ  
問  
合  
中  
ノ  
モ  
ノ  
ハ  
第  
二  
報  
ト  
シ  
テ  
近  
ク  
報  
告  
ス